

# MIOJ (Made In Occupied Japan

## 占領下日本製)のはなし

会員番号0022 高島鎮雄

研究会のテーマ募集に、私の手元に何台かあったので、軽い気持ちで「Made In Occupied Japan のカメラ」と書いて応募した。図らずもそれが採用され、言い出しっぺの私が研究発表を仰せつかる羽目に陥った。しかしこれは制度上のことで、カメラそのものの成り立ちや構造、歴史などとは関係ない。研究発表と言うにはあまりにも軽い内容なので、簡単な報告に留めさせていただく。

現在市場に出回っている第二次世界大戦直後の日本製カメラに Made In Occupied Japan と刻印されたものが時折見られる。これは「占領下日本製」という意味で MIOJ ないし OJ と略されることも少なくない。

1945(昭和20)年8月15日、日本はポツダム宣言を受諾し、敗戦国となった。その結果独立国であることを失い、米国および英連邦の被占領国となった。日本には米国および英連邦の連合軍が駐留し、統治することになる。連合軍最高司令官(Supreme Commander for Allied Power = SCAP)には米陸軍のダグラス・マッカーサー元帥が就任、お堀端の第一生命ビルを接収した GHQ (General Headquarters) から、さまざまな指令を出して日本を統治した。

その指令が SCAP Instruction = SCAPIN と呼ばれるもので、その総数は 2204 にも達し

た。その一つが 1947 年 2 月 20 日に発令された SCAPIN 1535 「Marking of export articles (輸出品のマーキング)」で全ての輸出向け製品に「Made in Occupied Japan (占領下日本製)」と表示するよう指令した。

その原文(英語、抜粋)を以下に示す。

「The Imperial Japanese Government is hereby directed to take immediate steps to insure that every article prepared for export after 15 days of receipt of this directive will be marked, stamped, branded or labeled in legible English with the words "Made in occupied Japan".」

この指令書は、マッカーサー副官の John B. Cooley 大佐が Supreme Commander の代理でサインしている。「日本帝国政府」宛に書かれているが、この指令の相手は明らかに「日本」という国ではなく、「Occupied Japan ; 占領下の日本」という地域なのだとする占領側の主張が示されている。

この結果 1947 年中頃から、輸出される全ての日本製品には MADE IN OCCUPIED JAPAN と記されるようになった。それは、ピンはカメラや望遠鏡から、陶磁器、繊維製品、キリはブリキや紙の玩具にまで及んだ。したがって MIOJ 表記のあるカメラは表向き主としてアメリカから里帰りしたものである。表向きというのは、当時国内向けのカメラには高率の

物品税が課せられており、無税の MIOJ 製品が横流しされた可能性がないとは言えないからだ。因みにアメリカにも 1979 年に設立されたメンバー約 100 名の Occupied Japan Collectors Club が存在するようだ。

カメラの場合 MADE IN OCCUPIED JAPAN は通常軍艦部や底蓋、あるいは張り革に刻印され、さらにケースにも打刻されることもあった。16mm の豆カメラではルーペで拡大しなければ読めないほど小さな文字で、しかも気づかない所に刻印したものもある。最も多く見られるコニカ I 型では初期には軍艦部に刻印していたが、後には底面の擬革への型押しに変更している。研究会では占領下日本という表記が差別的、国辱的なので、意図的に目立たなくしたのではないかと、言う見解を披露する会員も居た。確かにそう言った面もあったのかも知れないが、私は後期には占領軍の締め付けが緩み、また撤廃されたときに即対応できるよう準備していたのではないかとも思う。

1949 年 12 月 5 日の SCAPIN 2061 「輸出品のマーキング(原文抜粋下記)」では、SCAPIN 1535 を廃止し、「Made in Occupied Japan」、「Made in Japan」もしくは「Japan」の 3 種の表示が認められ実質的には「Occupied Japan」としなくても良くなった。



MIOJ表記が最も多く見られるコニカ I 型 (小西六写真工業1948年3月～1953年8月)



コニカ I 型の MIOJ 表記は初期には軍艦部への刻印である (Body No.16784)。



コニカ I 型の後期には底部の張り革(擬革)への型押しが変わった (Body No. 40569)。



スーパー I 型の MIOJ 型押しはボディ表面下方の張り革にある。

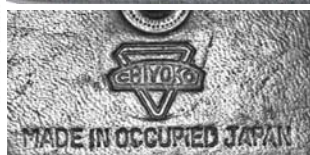
→小西六ではセミパールやベビーパールにも MIOJ があるが、これは初めて単独距離計を内蔵したパール I 型 (1949 年 4 月～1950 年 9 月)。



ミノルタ35 I 型(千代田光学精工1948年2月～)にもMIOJ表記のものが見られる。これはBody No.2571で24×32mmの日本判で、つり環もない最初期型。ミノルタ35 I 型は1951年に24×36mm判になったE型までMIOJがあった。



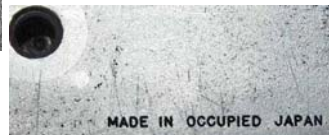
←ミノルタ35 I 型の底蓋に刻印されたMIOJ。



ミノルタ35 I 型ではハードケースにもMIOJが型押しされている。上は当時のチョコのマーク。



キヤノン II B(キヤノンカメラ1949年2月～1951年1月)の場合。本機はBody No.34974。II Bは変倍ファインダーを備えた最初のモデル。これによりキヤノンはライカと決別し、独自に歩み始めた。私は考えている。



キヤノン II Bの底蓋のMIOJ表示。左上の黒円は三脚ネジ穴。



菅谷精工の16mmカメラ、ルビックス16の後期型(1949年～)



ルビックス16後期型では、底部にMIOJが入る上に…ボディ裏面の革貼りにも型押ししている。



16mmフィルムを使う日本製豆カメはアメリカでも珍重されたのでMIOJが少なくない。これは三和商会が1938年から作っているマイクロの戦後版マイクロ I 型(1946年～)。



マイクロ I のMIOJはなんと裏蓋開閉のアンロックのメッキ部分にあり、文字はごく小さい。気がつかない人も少なくないと思うので、もしあなたがマイクロをお持ちだったら、一度調べてご覧になったら？



太陽堂光機のエボックス(1948年～)の対米輸出用ヴェストカムで、当然MIOJだ。



ヴェストカムの底部にはMIOJとともに、AMERICAN HOME INDUSTRIES INC向けと記されている。輸出先の名称を刻印するのは珍しい。



フェアマウント・Jのフィルムはライカ式に底から装填する。底蓋にMIOJの刻印がある。メッキがニッケルなのはこの時代としては珍しい。



藤田(?)が1950年に作った極めてプリミティブな35mmカメラ、フェアマウント・J。名称からして対米輸出用に作られたオモカメラだ。

135フィルムの24×36mm判36枚撮りだが、焦点面のカーブした単玉固定焦点レンズ、B. I.シャッターという簡単スベック。絞りだけは回転式で8、11、16の3段階。

「Rescinds SCAPIN 1535. Except as specified, all articles prepared for export, the immediate container thereof and the outside package will be marked, branded or labeled in legible English with the words "Made in Occupied Japan", "Made in Japan" or "Japan".」

これは当時既に1951年9月8日のサンフランシスコ講和条約締結の準備が進んでいたからであろう。カメラでは1950年の中頃までMIOJ表記がなされたが、アメリカ、カナダ、オーストラリアはその後も輸入品に原産国表示を要求していた。

日本と同じく第二次大戦の敗戦国であったドイツでもMIOJに似た表示が義務化されていた。日本でよく見かけるのは東ドイツ製カメラに記されたUSSR OCCUPIED GERMANYで、ソ連占領下ドイツ製の意味である。滅多に見られないが西ドイツ製カメラにGERMANY US ZONEと記されたものもある。西ドイツは米、英、仏などにより分割占領されていたので、そのうちのアメリカ占領下のドイツという意味である。

日本ではMIOJが廃止された後も、米軍の

PX(酒保)で軍人や軍属に販売されたカメラには、横長の菱形の中にE・Pの文字を入れたマークが刻印されていた。これを私は長くExportだと思っていたが、研究会の席で湯浅会員からExchange Post(軍票を現地通貨に交換する両替所の意味)の略であることをご教示いただいた。それ故にEとPの間に中黒(印刷用語で中央にある点のこと)があるのだという。

E・Pマークもそのカメラが米軍人、軍属への販売用で、日本の物品税の対象外であることを示していた。

E・Pマークはある時期のキヤノンに多いが、日本の中古市場に出回っているのはほとんどがアメリカからの里帰りである。

写真は私の所有するMIOJカメラである。



リコーフレックスは一貫して底部三脚ネジ穴の周囲にMIOJを刻印していた。



当然二眼レフにもMIOJがあった。割によく見るのはリコーフレックスのIII型(理研光学工業1950年3月～)だ。銘板の文字が弧を描いた最初のIII型からあるが、本機はピントルーペの付いた1951年～のIII B型だ。